



次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

メモ

- 1 鎌倉武士、入道して*高野の蓮華谷に行ふありけり。この者が寝る所にて、夜な夜な女と物語をしける音のしければ、具したりける弟子ども、1 おほかた心得がたくて、*便宜のありけるに、ある弟子、この入道に尋ねたりければ、「さる事あり。我が女の鎌倉にありしが、夜な夜なこれへ来るwなり。それに何事も言ひ合はせ、また、2 ふるさとの事のおぼつかなさも語り、x世間の事もはからひなどしてあるxなり」と言ひければ、弟子、いふはかりなくふしぎにおぼえて、
- 5 *空阿弥陀仏にありのままに申しければ、空阿弥陀仏うちY案じて、「さる事も多くあり。この女のいたく恋ひしく思ふによりて、魂などの通ふaにこそ。この*定yならば、*臨終の妨げにもzなりならず。急ぎ祈るべきぞ」とて祈られけり。ある時に、「念仏にて祈りてみん」とて蓮華谷の聖、三、四十人ばかりめぐり居て、この入道をなかに据ゑて、念仏を*責め伏せて申したるに、入道も同じく申しけるが、空阿弥陀仏の秘蔵の本尊の、*帳に入りたるがおはしましける、そのかたをつくづくとまもりて、おそろしげに思ひて、わなわなとふるひければ、空阿弥陀仏、よりて、「など3おそろしげに思ひたるぞ」と問へば、「その御本尊の御前に、かの女房がまうで来て、我を世にうらめしげbに見て候ふが、などやらん、あまりにおそろしく」と申しければ、その時、空阿弥陀仏、「*門々不同八万四、為滅無明果業因、利剣即是弥陀号、一声称念罪皆除」と、たかく誦せられたりければ、この女の顔の、中より二つにわれて、散るやうに見えて失せcにけり。これをば人は見ず、ただ入道ばかり見て、いとどおそろしくて、つんつんとかみへ躍りたるが、その後はもとの心になりて行ひけり。念仏の力のたふとき事、いとど人々たふとびあひけり。本体の女は、つやつやさる事なくて、もとのやうに鎌倉にありけりとぞ聞こえし。天魔のしわざか、また、女の恋ひしと思ひけるがゆゑにか、いと
- 15 A。

注

* 高野の蓮華谷⇨仏教の聖地、高野山にある谷の一つ。 * 便宜⇨よい機会。好機。 * 空阿弥陀仏⇨高野山の高僧。
 * 定⇨様子。 * 臨終⇨死に臨んで極楽往生を願うこと。 * 責め伏せて⇨激しい調子で行って。 * 帳⇨垂れ布。
 * 門々不同……⇨仏典の一節。阿弥陀仏の名を唱えれば救われる、と説いている。

問一

波線 **W** ⇨ **Z** について、次の (i) (ii) に答えよ。

(i) 波線 **W** ⇨ **Z** のうち、一つだけ他とは文法的に異なるものがある。その記号を記せ。

(2点)

(ii) (i) で挙げたもの以外に共通する三つの語を、文法的に説明せよ。

(2点)

問二

傍線 **a** ⇨ **c** の文法的説明として最適なものをそれぞれ次の中から選び、記号を記せ(同一記号の反復使用不可)。

(6点)

ア 格助詞

イ 接続助詞

ウ 完了の助動詞

エ 断定の助動詞

オ 動詞の活用語尾

カ 形容動詞の活用語尾

キ 副詞の一部

問三

傍線 **X**・**Y** のここでの意味として最適なものをそれぞれ次の中から選び、記号を記せ。

(6点)

X ア 世の中の出来事も話題にして

イ 将来のことにも思いめぐらして

ウ 暮らし向きのことにも相談して

エ 親しい人に伝言などとして

Y ア すぐに納得して

イ あれこれ考えて

ウ 困ってしまつて

エ 平静を装つて

問四 傍線 1 とあるが、どうして「弟子ども」は「心得がたく」思ったのか。簡潔に説明せよ。

(9 点)

問五 傍線 2 を口語訳せよ。

(8 点)

問六 傍線 3 とあるが、それはどうしてか。最適なものを次の中から選び、記号を記せ。

(6 点)

ア 女の顔が二つに割れて粉々になって飛び散ったから。

イ 女房が姿を現して恨めしそうに見ていたから。

ウ 大勢の僧が集まって念仏を唱えて自分を責めたから。

エ ありがたい秘蔵の本尊を初めて間近に見たから。

問七

A に最適なものを次の中から選び、記号を記せ。

(5 点)

ア あはれなり

イ いたづらなり

ウ なほざりなり

エ ふしぎなり

問八

問題文の主題を最もよく示している表現を、文中から十字以内で抜き出して記せ（句読点等も一字として数える）。

(6 点)